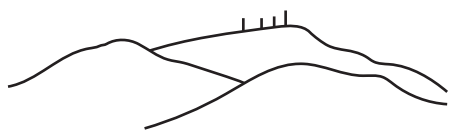


Youth Manna

2022/1/10 - /1/16



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/1/10(月)

1 テモテ 5:1-16

①やもめを敬う (3節)

パウロは、子供か孫のいるやもめには、彼らが親(やもめ)に敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつけさせるように諭している(4)。親を尊敬し愛することは神様が命じていることなんだよ。ユースの時期には、親に対して色々な気持ちを抱くものだけれど、何よりもまず神様に従う気持ちを持って、愛することを選ぼう!

②信者である婦人の身内にやもめがいたら

その人がやもめを助け、教会に負担をかけないように(16)とパウロは忠告している。一見すると冷たくも聞こえるこの言葉だが、パウロはむしろクリスチャン一人一人が自立した生活を送ることを望んでいるのではないだろうか? 今日、学校や職場、家庭で、教会で、助けを必要している人を家の教会のリーダーに任せきりにするのではなく、自分のできることをやってみよう!

2022/1/11(火)

1 テモテ 5:17-25

長老(教会で指導的な立場にいる人)に対して、どのように接すべきかが書いてあるね。ユースのみんなにとっては、牧師先生や家の教会のスーパーバイザー、リーダーたちだね!

特に「みことばと教えのために労苦して」くださっている牧師先生への尊敬の態度とは、みんなにとってどのようなものだろう? 普段牧師先生が語っていることに対して、どれだけ真剣に聞いているかな? 礼拝でのメッセージを聴く心の態度はどうだろう?

今日は、日曜日の牧師先生のメッセージを思い出して、どのように神様に従うべきか考えよう! そしてそれを実行しよう!!

2022/1/12(水)

1 テモテ 6:1-10

神は私たちの人生に計画を持ち、御手を持って導いてくださる。この箇所ではパウロが教える敬虔とは、この神を信じ、信頼して、従って歩む生き方だと言える。神との交わりによって、その人は満ち足りる。この「満ち足りる心を伴う敬虔」が、大きな利益を得る道である(6)。

敬虔とは、すぐに身に付くようなものではなく、神のみこころを正しく知り、示されたみこころを実行することによってなされる。パウロは、「私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました」(ピリピ 4:11)と言っている。彼も敬虔のために自分を鍛錬した一人であった。

日々の神様との交わりに、それほどの価値を置いているだろうか。神との交わりを大切に、その中で満ち足りる心を得られるよう祈ろう!

2022/1/13(木)

1 テモテ 6:11-21

良い選択をしているだろうか。11節の「これらのことを避け」とは、4節の「ねたみ、争い、ののしり、邪推、絶え間ない言い争い」10節の「金銭を愛すること」が挙げられる。私たちはこれらを避け、11節の「義と敬虔と信仰、愛と忍耐と柔和」を追い求め、選び取る必要がある。

そして17節からはお金持ちについて語られているが、あなたのお金に対する姿勢はどうだろうか? お金ではなくても、神様よりも大切に、頼る存在となっているものはないだろうか?

高慢にならず、富に重きを置かず、神様が喜ぶことを選び、惜しみなく喜んで分け与えられるよう生きよう!(17-19節)

2022/1/14(金)

申命記 1:1-18

モーセに率いられたイスラエルの民は、40年の荒野の旅を経て、次世代となっていたよ! ついに約束の地へ入ろうとしていたこの大事な時に、モーセがしたことは「みおしえの確認」でした。約束の地へ入るといことは大切なことだけど、それ以上に、その場所で神様の民として、神様を愛し生きるということが何よりも大事なことからだね。

みんなにとっても、どこに行くか、どここの学校を目指すかということとはとても大事なことだけど、神様が置いてくださる場所で、どのように神様と歩いていくかが何よりも大事なことだよ。

今日、自分の置かれた場所で、イエス様を愛して生きるとはどのようなことか、考えて歩もう!

2021/1/15(土)

申命記 1:19-46

今日の箇所では、民数記の13,14章で起こったことがまとめて書かれている場所。そこには、神様を信頼することができず、与えられようとしていた地に入れなかった人々の姿が記されているね。

そこがよいところなのは知っていたけど、もともと住んでいる人が強そうだったから無理だと諦めてしまった。一緒にいる神様が助けてくださると信じられず、むしろその状況に文句をも言ってしまっていたね。そして後半では逆に神様が「行かない方がよい」と教えてくれたことに無視して、敗北してしまう姿も…

私たち人には、目に見えることで全てを考えてしまう弱さがある。その分、神様に信頼することって難しいよね。ヘブル11:1を読もう。友だちや家族とお互いの信仰がより強められるよう祈り合おう!

2021/1/16(日)

申命記 2:1-15

イスラエルは、長い間セイル山の周りを移動していました。近隣の諸民族の領地を迂回したり、通過したりして進む様子が書かれています。6節を読むと、民は闇雲に力づくで食料や水を手に入れる必要が無く、神様が必要な物を彼らに与えておられたことがわかります。また、イスラエルとモアブとの衝突は避けられました。それはアブラハムの甥の口がモアブ人の先祖にあたることが要因であり、神様が敵対することを禁じたからでした。意外に感じるかもしれませんが、イスラエルの民にとって周辺の諸民族は敵対者ばかりではありませんでした。神様がその人々に所有地を与えておられるからです。

お祈り: 荒野の旅を思い返す時、神の民は真っ先に何を思い起こすのでしょうか。祝福、見守りということばを通して、歴史の中に働く神様を、人生という旅路において実感できますように。